

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901248	事業の開始年月日	平成17年3月17日
		指定年月日	平成17年3月1日
法人名	医療法人 寛栄会		
事業所名	高齢者グループホーム カメリア壱番館		
所在地	(2 2 3 - 0 0 5 7) 横浜市中区新羽町 3 9 5 4 - 7		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境の中のグループホームで、入居者は毎日の散歩等を通じ四季折々の花や木々を見ながら季節を体感されています。食事は同法人の老人保健施設の管理栄養士が作成したメニューを基に、入居者と一緒に地域の商店に買い物に行き、調理を行っています。地域の農家の方からいただいた取れたての野菜が食卓を飾る事もあります。入浴は毎日入る方、一日おきの方、早い時間を希望される方、夕食後の方など一人ひとりの希望に合わせる対応をしています。同法人のボランティア行事や映画鑑賞会、メイク教室への参加のほか、ホーム内で行われる週2回の音楽療法、大正琴個人レッスン、ボランティアによるヨガ体操、入居者の希望を取り入れた外食会、地域の行事への参加などイベントも多く、楽しみの多い生活環境が整備されています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年9月2日	評価機関 評価決定日	平成23年12月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所は、横浜市中区地下鉄・新羽駅より徒歩20分、お寺のある小山を背にした畑の中にあり、春には梅、桜が咲く静かな環境にある。法人は介護老人保健施設を中心に介護事業所を運営しており、当事業所も法人の指導を受けながら運営されている。
理念をもとに、今年度の目標の一つに「一人一人と話をする時間を多く持ちその方の気持ちや要望を汲み取り良い生活を送れるように」を掲げ、利用者と一緒に食材を買いに行き、食事の用意をしたり、毎日入浴をしたり、作品づくりなどを行っている。また職員が利用者と少しでも多く関われる時間を生み出せるように記録の方法を工夫している。
【法人介護老人保健施設との連携】
法人の介護老人保健施設に併設しているカメラリア診療所でほとんどの利用者が受診している。看護師による週2回の健康チェックや相談が行われている。徒歩5分にある同施設の催し物、シアターでの上映会、カラオケ、「椿まつり」に参加している。法人の療法士による音楽療法も実施している。
【看取りへの対応】
契約時に看取りについて家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合には過去の例をもとに家族の協力を得て、終末医療の専門医の往診と24時間対応の訪問看護の協力を得て対応する予定である。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	高齢者グループホーム カメリア壱番館
ユニット名	1階、2階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由な生活」「家庭的な生活の場」「家族や地域との交流」の3本柱の理念を掲げている。玄関に掲示し、職員は常に理念を確認し、共有・実践できるようにしている。	開所時に法人を中心に作成した3つの理念をもとに「一人ひとりと話をする時間を多く持ち、その方の気持や要望を汲取り、良い生活を送って頂けるようにする」「交流の場を作る」「行事への参加」を職員と考え、今年度の目標に掲げ、理念と共に玄関に掲示している。職員の入社時に説明し、また、フロアミーティングの折にも確認し、実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の食材や日用品、衣類など地域の商店で購入している。近隣のレストランでの外食や、美容室も利用している。また町内会に入会し、地域の行事などに積極的に参加している。	北新羽町内会に加入し、回覧板などで情報を得て、地域行事のお祭りや豆まきなどに参加している。体験学習として新羽中学の生徒3名や、ヨガのボランティアを受け入れている。事業所の周りにはお寺や畑があり、近隣の方には毎日の散歩の際に声をかけたり、野菜などをもらったりしている。近くにある同法人の介護老人保健施設の催しに参加し、利用者やボランティアと交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、近隣の中学生の福祉体験実習の受け入れを行っている。小学校の運動会や地域のお祭りなどの行事参加で地域の方々と交流し、理解を得るように努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームでの生活を報告する中で、様々な意見をいただいている。それを検討し、ホームでのサービスに反映できるように努めている。	運営推進会議は弐番館と合同で行っている。行政関係者、社会福祉協議会、地域包括支援センター、地域代表などメンバーが多数で調整が難しく、回数を多く開催出来なかった。現在、弐番館と合同でどのように開催するかを考慮中である。	出席者や会議の内容を工夫して、地域との実質的な連携が出来る会議の開催を期待します。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市区町村の担当の方と連絡、相談を行い、入居者に必要なサービスにつなげるなど連携を図るように努めている。また情報をいただいた研修には職員を参加させている。	高齢・障害支援課、保護課、福祉保健センターなどの担当者に相談に出かけている。感染症予防の研修を受けたり、健康福祉局事業指導室からケア記録の作り方などの助言を得て運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人内の勉強会へ参加し、拘束の定義を再確認している。職員ミーティングでは個別に入居者について検討し、拘束のないケアを実施している。	法人の勉強会で身体拘束に関する研修を受け、ミーティングで話し合い、拘束を行わないケアの実践に努めている。身体状況や家族の意向により車椅子を使っている人もいる。日中玄関、各ユニットの入り口は施錠せず自由な生活が出来るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人内の勉強会に参加し再認識できるようにしている。虐待に関するアンケートも定期的の実施しており、自己確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人内の勉強会に参加し、学習の機会を持っている。制度の利用が必要な入居者には関係者、行政などに連絡し活用につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用い、順を追って説明し、疑問点を伺い説明を行っている。改定時には文章を発送した上で説明を行い、同意書をいただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見箱を設置している。重要事項説明書に苦情窓口を明記しているほか、見やすい場所に連絡先を掲示している。	意見箱を用意しているが、これまで意見はない。家族の来訪時に利用者の様子を伝え、要望を聞いている。また、利用者との日常の会話から、誕生日の料理などの希望を聞き、対応している。家族から「電話がなかなかつながらない」という苦情があったので事情を調べ、対処した。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員ミーティングを開催し、職員の意見が表出できる場としている。申し送りや連絡ノートも活用しているほか、自分の意見を言いやすい職場づくりを心がけている。	月1回の職員のフロアミーティング時の他、管理者が個別に職員に声をかけ、意見や要望を聞くようにしている。「外出行事を多くして利用者を楽しませたい」という意見を取り入れる予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月二回の法人内部、各部署代表者による会議で、それぞれの部署との情報交換を行っている。また法人本部には常に相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内で合同の新人研修や隔月実施の学習会に参加している。スキルに合った外部研修への参加の機会も設けている。業務内では後輩職員へ随時指導できるよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内や外部研修への参加の際、情報交換を行っている。同法人のグループホームとの交流の中で助言をもらうことも多い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学で本人と話し合う機会を持っている。また、本人、家族ともに納得し、安心してから入居できるように体験入居を利用することもできる。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の電話や来所の際、家族の不安などを伺うとともに、話しやすい関係作りに努めている。入居直後は本人の様子を電話で伝えるなど、安心していただくようにしている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時に提出していただいた資料や面談内容を他職種で検討し、必要な支援を見極めて対応できるように心がけている。必要に応じて他機関との連携も行っている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、できる事はお願ひしたり、一緒に行っており、その際は自然に労いの言葉かけを行っている。また一緒に食事をするだけでも良い関係が築けている。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に様子を報告するとともに、家族からも面会時、外出、外泊時の様子や感想を伺っている。職員、家族間の情報を共有し本人と共に支える関係作りを実践している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にこれまでの関係が継続できるよう馴染みの方の面会をお勧めしている。それまで参加していた行事などへの参加も継続できるように支援している。	家族の面会の他、以前住んでいた場所の知人など、家族の了解を得た方の訪問がある。入居以前からの付き合いのある方と出かける利用者もいる。開所以来6年になるので、いつも行くレストランや美容室が馴染みの場になっている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に配慮し食事席など決めている。レクリエーションの時などは利用者同士が上手くコミュニケーションが取れ、良い関係を作れるように職員が間に入り支援している。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約時に今後も相談に応じる旨を必ずお伝えしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中で入居者の希望、要望を把握している。意思表示が困難な方には日常生活を注意深く観察し、本人の意向を把握する努力をしている。	利用開始時のアセスメントにより、家族や本人の思いや意向を把握している。入居後は日常会話の中から思いを聞き取っている。思いを表現しにくい方については表情、動作、行動などを注意して観察し、意向・要望を汲み取るように努めている。	
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族からこれまでの生活全般を伺っている。入居後も会話の中で情報を収集し、個人情報に留意して職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、状態は個人記録に記入している。心身状態や体調は変化を見逃さないよう観察を行っている。また持っている力を把握し、維持できるようにケアにつなげている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の要望を取り入れ、日々の生活からアセスメントを行い、月6ヶ月毎に介護計画を作成している。状態が変化した時は随時プランを変更している。	入居時のチェックシートによりアセスメントを行い、介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、見直しをしている。利用者の状態に変化が見られた時にも、チェックシートによるアセスメントを再度行い、担当者会議で計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録、バイタルチェック表、食事量表などの記録、申し送りを中心に職員間で情報を共有し、より良いケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの変化に応じて同法人内とも連携をとり対応している。必要に応じたサービスが提供できるように家族とも話し合い、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やボランティア行事、同法人内での行事に参加するほか、買い物や外食などで地域に出ることで地域とつながり、楽しみのある生活の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○ かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決め定期的に受診の支援をしている。かかりつけ医には生活上の注意点など相談している。また同法人内の診療所とは医療連携を図っている。	入居前からのかかりつけ医や入院先の病院から紹介を受けた専門医に、家族が対応して受診している方が数名いる。他の利用者は法人の介護老人保健施設に併設されているカメラア診療所で受診している。看護師が週2回訪れ、健康管理を行っている。歯科は近隣の歯科や介護老人保健施設に来る歯科医を利用している。	
31		○ 看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師と職員が入居者の状態を共有している。変化があれば家族同意の上、早急に医療機関につなげるように対応している。		
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、情報提供書を病院に提供し、家族に同意を得て医師からの説明に同席させていただいている。退院前には病院関係者に相談し退院後の生活環境の整備を図っている。		
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に見取りに関する指針についての説明を行っている。終末医療専門医、訪問看護の機関と連携を取り看取りを行った経験がある。	重度化した場合には指針に沿って家族と話し合い、対応する。現在、3ヶ月毎に専門医に受診している方がいる。終末期については契約時に説明し、看取りについての同意書を貰っている。看取りは過去に一度あり、終末期医療専門医と訪問看護の協力を得て対応した。	終末期の対応について職員と方針・対応方法を共有することを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内の救命救急委員会に職員を配置し、月一回の会議に参加して内容を持ち帰り申し送っている。また同法人の勉強会では実践的な訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に指導いただき、年二回防災訓練を行い、緊急時にはスムーズに通報、初期消火、避難誘導できるように心がけている。防災訓練には地域の方にも参加していただいている。	消防署指導のもとに年2回、夜間想定訓練を行なっている。今年度の達成目標に挙げた地域の方々の参加については、近くに住んでいるグループホームの家主の参加を得た。災害時には徒歩5分の介護老人保健施設に避難することになっている。同所には非常時に対応する備蓄がある。	運営推進会議などで災害対策について話し合い、訓練に地域の方が参加されることを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	リビングで行う申し送りでは個人名を出さずに行っている。更衣、入浴、排泄等に関しては十分に気を配っている。自尊心を傷つけるような言葉かけや対応を行わないよう心がけている。	利用者のプライバシーを損ねないケアについて、職員には法人の研修やミーティング時に周知させている。トイレ誘導はさりげなく声掛けをし、排泄物の処理も他の利用者に気づかれないように心配りをしている。個人情報に関する書類は事務室に鍵をかけて保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすい言葉かけを行うように心がけている。日々の生活の中から本人の希望などを汲み取るように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先することなく、入居者の意思を尊重し、本人のペースで生活していただけるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着選びでは、その人らしい服装の支援を心がけている。衣類購入の際には、その方によって店を選んでいる。髪型も本人の希望に合わせ地域の美容室でカット等を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれに得意な事、できる事を生かして調理、盛り付け、配膳、洗い物を行っていただくことで、食事への関心を高めている。	法人の介護老人保健施設の用意した献立に従って、前日に利用者と食材を買いにスーパーに出かける。利用者はテーブル拭きや、配膳、下膳、食器拭きなど、出来ることを手伝っている。職員も見守りや介助をしながら一緒に食事をしている。訪問時、食事中にCDを聴く静かなユニットと賑やかなユニットがあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を使用し個別に把握している。水分量は必要に応じてチェック表を使用している。食事、水分量には注意をはらい、不足ぎみの方には個別で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、必要な方には見守りや介助を行っている。義歯の紛失や破損を防ぐための管理も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、必要に応じて声かけや誘導の介助を行っている。できる限りトイレ内での排泄を目標としている。	職員は、排泄チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握して、声掛けをしてトイレでの排泄を心がけている。布パンツを使用している自立の利用者もいる。また、誘導により紙オムツからリハビリパンツに変わった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼らず排泄できるように朝食前に牛乳を提供したり、食事メニューにヨーグルトを取り入れている。毎日の体操や散歩など体を動かす事も重要と考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせられるように毎日午後から夕食後までの入浴を可能にしている。入浴したい時間帯など、一人ひとりの希望に対応している。	3割ほどの利用者が毎日入浴している。全介助で入浴する方やシャワー浴の方も数名いる。入浴中はCDを聴いたり、季節のショウブ湯、柚子湯を楽しんでいる。入浴は利用者と職員のコミュニケーションの場になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体力を考慮し必要な方には日中も臥床時間を作っている。その日の状態によって、夜間の睡眠に差し支えない程度に昼寝を勧めるなど体調の観察と併せて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書は個人ファイルに綴じている。変更があった場合、職員全員が把握できるように申し送ると共に症状や状態に変化がないか観察し、医師、看護師につなげている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般において「できる力」を活用していただいている。また楽しみのある生活や気分転換を図るため、外出や趣味の実践の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩は、希望を取り入れてコースを決めている。買い物の希望にも随時対応している。隔月の近隣への外食会も行き先を選択していただいている。	天気の良い日には事業所の周辺やお寺などの散歩にでかけている。毎月法人の介護老人保健施設の催し（カラオケ、シアター、ボランティアによる踊りなど）に参加したり、外食や行事として、桜、アジサイの花見やドライブに出かけている。家族と買い物などに出かける方もいる。	静かな環境の中の静かな生活ばかりでなく、時には普段行けないにぎやかな所、元気になるような所への外出が実行されることも期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	衣類や雑貨の購入の際、ご自分で支払いをしていただくようにしている。家族了承のもと、本人が小銭を持ち、散歩の際など自動販売機で飲み物を購入される方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には時間を配慮し電話で話ができるように支援している。手紙は切手や葉書等の購入や投函の支援のほか、毎月の事務関係の郵便の中に自筆の便りを同封するなどしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれた立地で、リビングからでも四季折々の花が見られ、季節感が得られる。室温や臭気に十分配慮し、落ち着いて生活できる環境を提供している。	明るいうちリビングからは季節により梅や桜が眺められる。テーブル、ソファ、小上がりの畳のスペースでゆっくりとした生活ができる。壁には利用者の作った季節の貼り絵やカレンダーが飾られている。利用者が気持ちよく過ごせるように、また感染症の予防のため、加湿器、床暖房を備えたり、換気に気をつけるなどの心配りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには日当たりの良い畳部分があり、個々に新聞を読んだり日向ぼっこをするスペースとなっている。またソファや窓辺でそれぞれ自由に過ごすこともできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇など馴染みの物、使い慣れた物をお持ち込みいただいている。ご自宅での生活のまま和床で生活される方もおられます。	窓から季節により、梅の花、桜の花、実がたわわに実った柿の木などが眺められる。居室にはエアコン、クローゼット、照明器具が備えられている。利用者は、タンス、仏壇、椅子、化粧道具など使い慣れた物や家族の写真を飾り、居心地の良い自分の部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すりを設置し障害物を置かないようにしている。居室の家具も状況に応じて配置換えを行い安全に配慮し、自立した生活が送れるよう常に考えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由な生活」「家庭的な生活の場」「家族や地域との交流」の3本柱の理念を掲げている。玄関に掲示し、職員は常に理念を確認し、共有・実践できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の食材や日用品、衣類など地域の商店で購入している。近隣のレストランでの外食や、美容室も利用している。また町内会に入会し地域の行事などに積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、近隣の中学生の福祉体験実習の受け入れを行っている。小学校の運動会や地域のお祭りなどの行事参加で地域の方々と交流し、理解を得るように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームでの生活を報告する中で、様々な意見をいただいている。それを検討しホームでのサービスに反映できるように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市区町村の担当の方と連絡、相談を行い入居者に必要なサービスにつなげるなど連携を図るように努めている。また情報をいただいた研修には職員を参加させている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人内の勉強会へ参加し拘束の定義を再確認している。職員ミーティングでは個別に入居者について検討し拘束のないケアを実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人内の勉強会に参加し再認識できるようにしている。虐待に関するアンケートも定期的の実施しており、自己確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人内の勉強会に参加し、学習の機会を持っている。制度の利用が必要な入居者には関係者、行政などに連絡し活用につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用い、順を追って説明し、疑問点を伺い説明を行っている。改定時には文章を発送した上で説明を行い、同意書をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見箱を設置している。重要事項説明書に苦情窓口を明記しているほか、見やすい場所に連絡先を掲示している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員ミーティングを開催し、職員の意見が表出できる場としている。申し送りや連絡ノートも活用しているほか、自分の意見を言いやすい職場づくりを心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月二回の法人内部、各部署代表者による会議で、それぞれの部署との情報交換を行っている。また法人本部には常に相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内で合同の新人研修や隔月実施の学習会に参加している。スキルに合った外部研修への参加の機会も設けている。業務内では後輩職員へ随時指導できるよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内や外部研修への参加の際、情報交換を行っている。同法人のグループホームとの交流の中で助言をもらうことも多い。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学で本人と話し合う機会を持っている。また、本人、家族ともに納得し、安心してから入居できるように体験入居を利用することもある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の電話や来所の際、家族の不安などを伺うとともに、話しやすい関係作りに努めている。入居直後は本人の様子を電話で伝えるなど、安心していただくようにしている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時に提出していただいた資料や面談内容を他職種で検討し、必要な支援を見極めて対応できるように心がけている。必要に応じ他機関との連携を行っている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、できる事はお願いしたり、一緒に行っており、その際は自然に労いの言葉かけを行っている。また一緒に食事をするだけでも良い関係が築けている。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に様子を報告するとともに、家族からも面会時、外出、外泊時の様子や感想を伺っている。職員、家族間の情報を共有し本人を共に支える関係作りを実践している。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居時にこれまでの関係が継続できるよう馴染みの方の面会をお勧めしている。それまで参加していた行事などへの参加も継続できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に配慮し食事席など決めている。レクリエーションの時などは利用者同士が上手くコミュニケーションが取れ、良い関係を作れるように職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約時に今後も相談に応じる旨を必ずお伝えしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中で入居者の希望、要望を把握している。意思表示が困難な方には日常生活を注意深く観察し、本人の意向を把握する努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族からこれまでの生活全般を伺っている。入居後も会話の中で情報を収集し、個人情報に留意して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、状態は個人記録に記入している。心身状態や体調は変化を見逃さないよう観察を行っている。また持っている力を把握し、維持できるようにケアにつなげている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の要望を取り入れ、日々の生活からアセスメントを行い6ヶ月毎に介護計画を作成している。状態が変化した時は随時プランを変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録、バイタルチェック表、食事量表などの記録、申し送りを中心に職員間で情報を共有し、より良いケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの変化に応じて同法人内とも連携をとり対応している。必要に応じたサービスが提供できるように家族とも話し合い、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やボランティア行事、同法人内での行事に参加するほか、買い物や外食などで地域に出ることで地域とつながり、楽しみのある生活の支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決め定期的に受診の支援している。かかりつけ医には生活上の注意点など相談している。また同法人内の診療所とは医療連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師と職員が入居者の状態を共有している。変化があれば家族同意の上、早急に医療機関につなげるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、情報提供書を病院に提供し、家族に同意を得て医師からの説明に同席させていただいている。退院前には病院関係者に相談し退院後の生活環境の整備を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に見取りに関する指針についての説明を行っている。終末医療専門医、訪問看護の機関と連携を取り看取りを行った経験がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内の救命救急委員会に職員を配置し、月一回の会議に参加して内容を持ち帰り申し送っている。また同法人の勉強会では実践的な訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に指導いただき、年二回防災訓練を行い、緊急時にはスムーズに通報、初期消火、避難誘導できるように心がけている。防災訓練には地域の方にも参加していただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	リビングで行う申し送りでは個人名を出さずに行っている。更衣、入浴、排泄等に関しては十分に気を配っている。自尊心を傷つけるような言葉かけや対応を行わないよう心がけている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすい言葉かけを行うように心がけている。日々の生活の中から本人の希望などを汲み取るように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先することなく、入居者の意思を尊重し、本人のペースで生活していただけるよう配慮している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着選びでは、その人らしい服装の支援を心がけている。衣類購入の際には、その方によって店を選んでいる。髪型も本人の希望に合わせ地域の美容室でカット等を行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれに得意な事、できる事を生かして調理、盛り付け、配膳、洗い物を行っていただくことで、食事への関心を高めている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を使用し個別に把握している。水分量は必要に応じてチェック表を使用している。食事、水分量には注意をはらい、不足ぎみの方には個別で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、必要な方には見守りや介助を行っている。義歯の紛失や破損を防ぐための管理も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め必要に応じて声かけや誘導の介助を行っている。できる限りトイレ内での排泄を目標としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼らず排泄できるように朝食前に牛乳を提供したり、食事メニューにヨーグルトを取り入れている。毎日の体操や散歩など体を動かす事も重要と考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせられるように毎日午後から夕食後までの入浴を可能にしている。入浴したい時間帯など、一人ひとりの希望に応えられるように対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体力を考慮し必要な方には日中も臥床時間を作っている。その日の状態によって、夜間の睡眠に差し支えない程度に昼寝を勧めるなど体調の観察と併せて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書は個人ファイルに綴じている。変更があった場合、職員全員が把握できるよう申し送ると共に症状や状態に変化がないか観察し、医師、看護師につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般において「できる力」を活用していただいている。また楽しみのある生活や気分転換を図るため、外出や趣味の実践の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩は、希望を取り入れてコースを決めている。買い物の希望にも随時対応している。隔月の近隣への外食会も行き先を選択していただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	衣類や雑貨の購入の際、ご自分で支払いをしていただくようにしている。家族了承のもと、本人が小銭を持ち、散歩の際など自動販売機で飲み物を購入される方おられます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には時間を配慮し電話で話ができるように支援している。手紙は切手や葉書等の購入や投函の支援のほか、毎月の事務関係の郵便の中に自筆の便りを同封するなどしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれた立地で、リビングからでも四季折々の花が見られ、季節感が得られる。室温や臭気に十分配慮し落ち着いて生活できる環境を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには日当たりの良い畳部分があり、個々に新聞を読んだり日向ぼっこをするスペースとなっている。またソファや窓辺でそれぞれ自由に過ごすこともできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇など馴染みの物、使い慣れた物をお持ち込みいただいている。ご自宅での生活のまま和床で生活される方もおられます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すりを設置し障害物を置かないようにしている。居室の家具も状況に応じて配置換えを行い安全に配慮し、自立した生活が送れるよう常に考えている。		